

WEBで約200人が受講

“事前・事後防災”講演会開く

技術士会本部
国士本部

日本技術士会中国本部(大田一夫本部長)は11日、ライブ配信による「2020年度第1回WEB防災講演会」を開催した。「事前防災、事後防災のあり方」をテーマに基調講演などが行われ、約200人が受講。災害リスクに関する知識や心構えを共有した。



講演会のもよう

観点から、広島・岡山・鳥取・島根に人数制限ありのWEB講演会場を設け、自宅や勤務先でもオンライン視聴できるようにした。

開会にあたり、大田本部長は挨拶で「災害による被害の発生を未然に防止し、軽減するために、国や地方自治体によるハード対策に加えて、国民一人ひとりが平時及び災害発生時に『自らが何をすべきか』を考えたうえで、事前・事後に十分な準備を行うソフト対策がより重要度を増している」と指摘し、「本日の講演会が、洪水・地震・土砂災害等のさまざまな災害に備える『防災意識社会』の一刻も早い実現の一助につながることを願っている」と呼びかけた。

その後、京都大学防災研究所教授の矢守克也氏が「避難スイッチ・セカ

ンドベストを進める豪雨災害防災」を演題に基調講演。効果的なソフト対策となる「避難」を考える上での重要なポイントなどを解説した。また、

広島県災害復興支援士業連絡会の道免明彦氏は「被災者支援の実態」を報告。広島県砂防課課長の山本悟司氏は「土砂災害の概要と対策」、建設コンサルタンツ協会中国支部防災委員長の金原智樹氏は「小学校防災教育の実践と防災DVD」をテーマにそれぞれ講演した。

このほか、日本技術士会における中国5県の防災委員会・防災部会による今後の防災活動のあり方や連携の必要性などを考える話題提供も行われた。

講演会は、広島県災害復興支援士業連絡会、建設コンサルタンツ協会中国支部、砂防学会中四国支部が共催した。